

〔南ヶ丘保育園の保育目標〕である子どもの「倅せになる力」をすくすく伸ばすの主旨は、

最低でも0～2歳、3歳頃までは、人格形成期の愛着関係の育つ時期にあるので、お母さんの手元で母子関係の中でしっかり関わり育つことが、脳科学的・心理学的にも一番必要な0～3歳時期と当保育園では捉えております。

0～3歳までの子育て環境は、お母さんの傍で子どもの日常がゆったりとした時間の流れと共に子どものペースが守られて生活習慣や遊びの繰返しが保障され、自ら学んでいく子育てが最良だと痛切に感じております。

この0～3歳の子育て時期を見過ごすと思春期頃に

子育てや子育ての結果が出て、子育てがとてもむずかしくなるからです。

そこで園としては、その点をご理解頂き保護者の皆様が信頼できると思われる園を選ばれて、その園に**我が子を託す覚悟と子育ての自己責任**が必要と考えます。園もお子様にとって安心できる心の拠り所に、「倅せになる力を伸ばせる」ように精一杯成長発達に支援したいと思っておりますが、お子様の園生活一日の大半が集団活動ですので、どうしても個人的関わりが少なくお子様とゆっくり接することができない場面に遭遇し、申し訳なく思うことも多々あります。

そのことは共働き家庭でも同じ状況になりがちだと思われます。

だからこそ南ヶ丘保育園では、入園する前に大野城市の保育所連盟加入の全園を見学してから最愛なるわが子を信頼し託す覚悟と自己責任をもって入園の判断をしてくださるようお願いしています。

南ヶ丘保育園は、保護者の皆様に要求することが、とても多い保育所です。

私たち職員は、入園のお子様の将来を考えて卒園までの期間をお子様の育ちを中心に、お子様の代弁者として保護者に接し子育ての応援をしていきたいと思っているからです。お子様が納得しないままに入園される場合もあり職員との信頼関係がなかなか成立せず園生活になじめないケースもございます。

そのような時には保護者の方に入園前の覚悟とその責任を振返って頂き、お子様中心の家庭生活になるように

保護者の方々と話し合う機会を持ちます。お子様の納得いく安定した園生活になるための子育てを最優先にして、保護者の子育て応援に努めます。お子様は、私たち職員の関わりよりもお母様のぬくもりや母の愛情ビタミンを望まれるからです。

そのような時には、「お母さんに会いたい」「私はお母さんの代わりです。」と抱きしめ

「お母さん、頑張っているからあなたも頑張れる？」「おりこうだね、待てるね」の慰めに頷かれますが不安感が残ります。

園生活では、どうしてもその子のペースが制限され待つことや我慢が強いられ、お子様に不安不満が募る場面が多々起こります。

ご家庭と園との大人同士が相互に補い合う“**かわいがり子育て**”が大切になります。

この**かわいがり子育て**は、生まれたばかりの赤ちゃんがお父さんやお母さんからたくさん愛されることで赤ちゃんの幸せな人生がはじまり、赤ちゃんからのしあわせを私たち大人は頂き、親子で「喜び」をたくさん交換する子育てが「**かわいがり子育て**」と提唱しておられる児童精神医で、小児科医の**佐々木正美先生**から学んだものです。

園児や保護者の方々と共にかわいがり子育てを原点に保育目標を掲げております。